

兆

【おん】 チヨウ
【きざす・きざし】

【4年】

6画
ノリリ兆兆兆



【なりたち】 昔、うらないに龜の甲を焼いて、そのさけ目の模様を見た。その模様にきざしが現れていると考えられていたからである。兆はそのさけ目の模様を表した字。『きざし』。

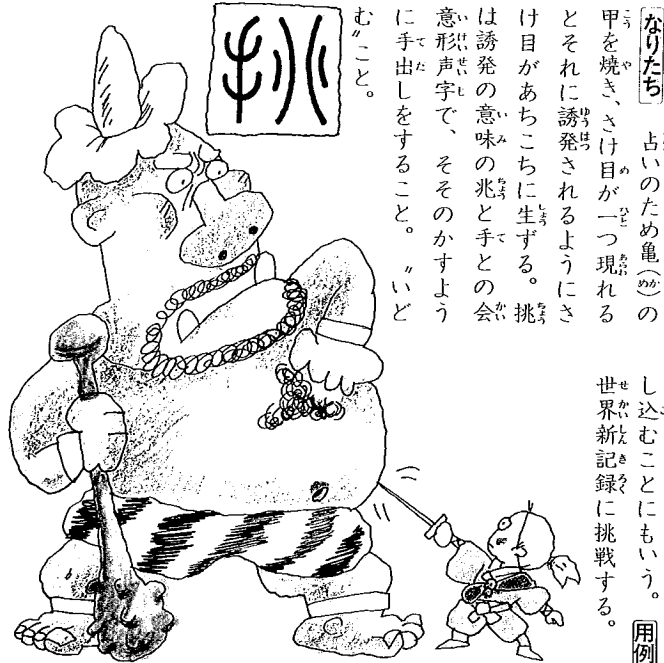
【いみじゆく】
▼きざし。
兆候：何かがおこりそうな前ぶれ。きざし。
前兆：なにかがおこる前ぶれ。
【用例】地震の前兆。

凶兆：悪いことの前ぶれ。
吉兆：よいことの前ぶれ。
▼億の一万倍。
▼数が非常に多い。【用例】兆億。

挑

【おん】 チヨウ
【いどむ】

9画
一十扌扌挑挑挑



【なりたち】 古いため龜(兆)の甲を焼き、さけ目が一つ現れるとそれに誘発されるようにさけ目があちこちに生ずる。挑は誘発の意味の兆と手との会意形声字で、そのかすように手出しをすること。『いどむ』こと。

【いみじゆく】
▼いどむ。しかける。
挑発：相手が応じてくるようにしかけること。そのかすこと。いどむこと。
挑戦：戦いを挑むこと。戦争をしかけること。試合を申し込むことにもいう。【用例】世界新記録に挑戦する。

眺

【おん】 チヨウ
【ながめる】

11画
目眺眺眺眺



【なりたち】 遠い先を占いみる意味の兆と目との会意形声字。遠い先に目をやって、ながめることを表した字。『遠くをのぞむ』こと。

【いみじゆく】
▼遠くながめる。
眺望：遠くを望みながめること。遠く見渡すこと。また、その眺め。
眺望台：眺望のよくきく高台。見晴らし台。

跳

【おん】 チヨウ
【はねる・とぶ】

13画
早早跳跳跳



【なりたち】 古いため龜(兆)の甲を焼くと現れるさけ目の模様を表した兆と足との会意形声字。兆はさけ目がばりばりつとはじけるように現れる。そのように、とびはねることを表した。

【いみじゆく】
▼はねる。とぶ。とびあがる。
跳躍：地面をけつてとびあがること。
跳馬：体操競技の一種。馬に見立てた台をとび越す競技。

眺眺

挑挑